

(2) 指導者の養成・資質向上

【現状と課題】

- 本県のスポーツ指導者については、これまでの取組みにより、年々増加傾向にあります。競技力の向上には優れた指導者の存在が不可欠であり、特にジュニア世代の成長に大きく影響を及ぼすことから、引き続き、指導者の確保と適材適所での活用が求められています。
- 指導方法は日々進化しており、指導者が最新の指導技術を習得する機会の確保や、競技ごとにジュニアから成年世代まで一貫した指導体制を確立するなど、指導力のレベルアップにつながる環境の充実を図る必要があります。

【具体的取組み】

- 各競技団体に、全国トップレベルの指導者を専属アドバイザーコーチとして配置し、県内の指導者が質の高い指導方法を学ぶことで、高度で専門的な能力を有する人材の養成・資質向上に取り組めます。
- 競技団体の中核となる指導者に対し、最新の指導技術を習得する講習会を開催するとともに、中央競技団体等が主催する講習会に派遣し、そこで学んだ実践的な指導方法を持ち帰り、県内の指導者にフィードバックすることで、全体のレベルアップを図ります。
- 児童・生徒の発達段階に応じた身体的な潜在能力を十分に引き出すために必要な、柔軟で適切な指導理念により指導できる指導者を養成するための研修会等を開催するとともに、指導力のある部活動指導員の確保に努めます。

【数値目標】

項目	令和4年度	目標値 (令和9年度)
日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録数	3,291人	3,500人



学校訪問による体操の実技指導

(3) ジュニアアスリートの発掘・育成・強化

【現状と課題】

- 世界の競技レベルは年々高まっており、競争が激しくなる中、アスリートの低年齢化が進んでおり、将来、世界を舞台に活躍する選手を輩出するためには、ジュニア世代から重点的に育成・強化を行う必要があります。
- 少子化等に伴い、競技人口が減少し、活動の維持に支障をきたしている団体があることから、競技スポーツの積極的なPRや地域活動との連携を図ることで、競技人口の裾野拡大、人材確保に向けた取組みを支援する必要があります。
- 児童生徒のスポーツ活動には、体育の授業を除けば、小学生はスポーツ少年団や民間スポーツクラブ、中学生・高校生は運動部活動があります。令和4年度のインターハイで過去最高の成績を収めるなど、近年の強化策により着実な実績を上げており、高い競技力の定着が必要です。
- 一方、深刻な少子化の進行による生徒数の減少や教員の働き方改革の緊急性等により、児童・生徒のスポーツ環境や運動部活動における指導体制については、新たな課題が生じています。
- また、学校に希望する運動部がないために、他の部に入部したり、部員不足により団体種目の活動が困難になったりするなど、学校における部活動の設置の在り方についても課題が生じています。

<国体少年種別総合成績の推移（本県独自調査による数値）>

平成29年 (愛媛)	平成30年 (福井)	令和元年 (茨城)	令和2年 (鹿児島)	令和3年 (三重)	令和4年 (栃木)
3位	13位	19位	延期 ※	中止 ※	17位

※新型コロナの影響

<インターハイ入賞件数の推移>

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
58件	35件	中止 ※	58件	72件

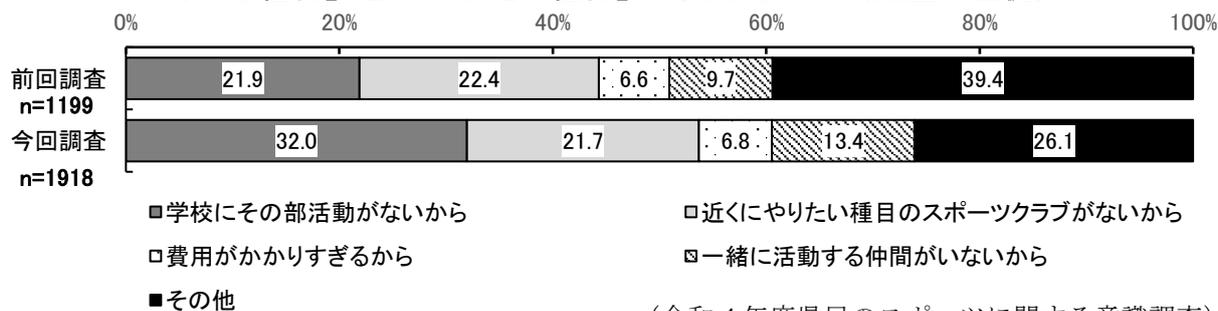
※新型コロナの影響

<全国中学校体育大会の入賞件数の推移>

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
6 件	5 件	中止 ※	10 件	11 件

※新型コロナの影響

<「やっている種目」と「やりたい種目」が異なる理由（児童・生徒）>



(令和 4 年度県民のスポーツに関する意識調査)

【具体的取組み】

- ジュニア世代の有望な選手を発掘し、科学的・体系的に育成することで、オリンピックをはじめ、国際大会等で活躍する選手を輩出するとともに、本県スポーツ界の次代を担う選手の育成・強化に継続的な支援を行います。
- 競技団体が実施するジュニア世代の育成・強化活動を支援するとともに、体験教室を通じて競技スポーツに興味・関心をもってもらうほか、地域の競技活動の場であるジュニアクラブチームの活動支援に取り組みます。
- 国体を含め、全国大会での上位入賞を目指して、中高生を対象に県外遠征や強化合宿の強化事業等を実施するとともに、優秀な指導者からの指導が受けられる体制を確保して競技力の向上を図ります。

【数値目標】

項 目	令和 4 年度	目標値 (令和 9 年度)
国体少年種別総合成績 ※	17位	10位台
「 ^{えがお} 愛顔のジュニアアスリート」及び修了生国際大会出場者数	5 人	5 人

※本県独自調査による数値

(4) スポーツ医・科学の活用

【現状と課題】

- 本県選手が健康に留意しながら、安全・安心に競技力の向上に取り組み、大会等で高いパフォーマンスを発揮するためには、スポーツ障害の予防・改善をはじめ、栄養管理、ドーピング防止などの正しい知識を身に付けることが重要であり、競技団体等からのニーズが高まっているスポーツ医・科学の専門家によるサポートを充実する必要があります。
- 県内トップ選手やジュニアアスリート等を対象に、高性能の機器により体力測定を行い、そのデータを基に効果的なトレーニングやスポーツ障害の予防等の情報を提供しており、今後は、蓄積したデータを活用し、更に先進的な取り組みを進める必要があります。(再掲)

【具体的取組み】

- スポーツ医・科学に関する相談や専門家の派遣に係る業務を一元化した「愛媛県スポーツ医科学センター」と連携し、スポーツ関係団体からの要請に基づき、強化活動等にスポーツドクターやトレーナー、薬剤師、栄養士等を派遣するとともに、国体出場選手にメディカルチェックを実施し、競技力向上や疾病による事故防止に努めます。
- 「えひめハイパフォーマンス測定室」において、デジタル機器を活用して、更なるデータの蓄積を進め、競技の特性に応じた効果的なトレーニング方法をフィードバックするとともに、競技適性の分析・評価ができる仕組みづくりに努め、ジュニアアスリートの競技選択をサポートできるよう取り組みます。
(再掲)

【数値目標】

項目	令和3年度	目標値 (令和9年度)
アスリートチェック年間測定人数(再掲)	140人	250人
スポーツ医・科学指導者派遣等事業の参加人数	2,946人	5,000人

(5) スポーツ顕彰制度の充実

【現状と課題】

- オリンピックや世界規模、全国規模のスポーツ大会において顕著な成績を収めた選手・団体を表彰しています。また、全県規模の各種スポーツ大会の開催に当たり、知事賞等を交付しています。
- 県民に夢と感動を与えた功績を称えることにより、競技者の励みになり、競技力の更なる向上につながるとともに、県民のスポーツへの関心や大会参加意欲を高めることができることから、適切に顕彰制度を維持することが必要です。

＜^{えがお}愛顔のえひめ知事表彰（スポーツ分野）件数の推移＞

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
スポーツ大賞	—	—	—	2人	—
文化・スポーツ賞	127人 5団体	100人 12団体	44人 —	62人 5団体	71人 10団体
スポーツ特別功労賞	—	2人	—	—	—

＜知事賞・教育長賞の交付件数＞

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
83件	87件	36件	59件	47件

【具体的取組み】

- 今後も引き続き、世界規模や全国規模のスポーツ大会で顕著な成績を収めた選手・団体を表彰するとともに、全県規模で開催されるスポーツ大会に知事賞等を交付します。

4 地域特性を活かした交流促進と地域活性化



(1) スポーツ大会・合宿誘致等による交流人口の拡大

【現状と課題】

- トップアスリートが出場するスポーツ大会の県内開催は、県内選手や団体の競技力向上につながるものですが、新型コロナの影響で大規模大会が中止となるなど、貴重な機会が失われています。
- コロナ禍で伸び悩む交流人口を拡大し、経済効果を生み地域活性化を図っていくためには、スポーツ大会の開催や合宿の誘致に積極的に取り組んでいく必要があります。
- 大会の開催や誘致に当たっては、改修された施設・設備や、競技団体・市町に蓄積された人的資源・競技運営方法など、えひめ国体・えひめ大会のレガシーを最大限に活用していく必要があります。

【具体的取組み】

- レベルの高い競技に間近に触れる機会を提供し、競技力向上につなげるため、国際大会や全国大会、国内外のトップアスリートの合宿等を誘致・開催します。
- 交流人口拡大や経済効果の創出による地域活性化を図るため、多様な規模・レベルのスポーツ大会開催や合宿実施を支援するほか、日本スポーツマスターズ大会の再誘致に取り組みます。
- 県内競技団体や県出身スポーツ関係者等と連携し、中央競技団体等との関係を構築するとともに、大都市圏で開催される展示会への出展等でえひめ国体・えひめ大会のレガシーを前面に押し出し本県の魅力を強力にPRするなど、戦略的な誘致活動を展開します。

【数値目標】

項目	令和3年度	目標値 (令和9年度)
大規模スポーツ大会の県内開催件数	年7件	年10件
うち、国際大会の誘致件数	年1件	年3件
トップアスリート合宿の県内実施件数	年2件	年5件
日本スポーツマスターズの参加選手数	—	9,000人 (令和7年度)

(2) 海外とのスポーツ交流の推進

【現状と課題】

- 県内競技力の向上や交流人口拡大による地域活性化を図るためには、東京オリ・パラ大会を契機に構築した海外との友好関係をレガシーとして継承し、スポーツを通じた交流を継続発展させていく必要があります。
- 長期化するコロナ禍で、合宿の受入れや本県選手団の派遣などの直接的な交流が困難となる中、友好関係の継続を図っていく必要があります。
- コロナ禍で落ち込んだインバウンド需要の回復を図るためには、スポーツ交流を通じて海外に本県の魅力を発信していくことが必要となっています。

【具体的取組み】

- 次代を担うジュニア世代による交流を中心に、東京オリ・パラ大会のホストタウン相手国・地域をはじめ、これまで築いてきた国内外の協力関係を生かしながら、海外とのスポーツ交流を積極的に推進します。
- オンラインを活用した国際スポーツ交流を積極的に実施し、友好関係の強化を図ります。
- 海外選手の発信力等を活用し、相手国・地域の住民に対し、本県の認知度向上を図ります。

【数値目標】

項目	令和3年度	目標値 (令和9年度)
スポーツ交流を実施する国・地域数	3か国	6か国



マレーシアバドミントンチームキャンプ

(3) スポーツイベントのレガシーの活用

【現状と課題】

○ 愛・野球博

野球競技人口拡大や競技力向上等を目的に、5年間にわたり取り組んできた自治体初となる野球に特化した「愛・野球博」事業の実施により、県民の野球熱は高まってきており、野球文化の一層の定着や野球王国愛媛の復活が求められています。

○ 全国健康福祉祭（ねんりんピック）

本県の65歳以上の高齢者人口は434千人（令和4年4月1日現在）に達し、総人口に占める割合（高齢化率）は33.3%となり、およそ3人に1人が高齢者となっています。また、長寿化が進み、高齢期を豊かに過ごすため、スポーツや文化など様々な社会活動に対する高齢者の参加意欲が高まる中、活動の場や社会参加の機会づくりが求められています。

○ えひめ国体・えひめ大会

県内各市町において、えひめ国体・えひめ大会で作り上げた実施競技への愛着やスポーツ施設の充実といったレガシーを継承し、県民誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを進めるとともに、住民がふるさとスポーツと自慢できる「一町一技」を普及・定着させていく必要があります。

【具体的取組み】

○ 「愛・野球博」事業のレガシーを継承し、野球を切り口としたスポーツ・文化・観光の各方面との交流を促進するとともに、全国規模の野球大会等を本県で開催することで、本県の野球文化の継承・発展を図り、交流人口拡大による地域経済の活性化につなげます。

○ 60歳以上の方々を中心とするスポーツと文化、健康と福祉の祭典である「全国健康福祉祭（ねんりんピック）」を、2023年度に本県としては初めて開催し、県内全20市町における29種目のスポーツ・文化の交流大会や、健康・福祉に関する様々なイベントを開催することで、高齢者を中心とする国民の健康の保持・増進、社会参加、生きがいの高揚等を図り、ふれあいと活力のある長寿社会の形成に寄与します。

○ えひめ国体・えひめ大会の開催の成果を絶やさず引き継ぎ、地域におけるスポーツ振興を図るため、国体等で開催された「ふるさとスポーツ」を活かしたまちづくりを進める市町の取組みを支援します。

【数値目標】

項目	令和3年度	目標値 (令和9年度)
全国規模の野球大会や合宿等の誘致件数	2件	3件
ねんりんピック ^{えがお} 愛顔のえひめ2023参加 予定人員（観客含む）	—	延べ約50万人 (令和5年度)

(4) 地域密着型プロスポーツ球団との連携

【現状と課題】

- 愛媛FC、愛媛マンダリンパイレーツ、愛媛オレンジバイキングス、FC今治の4球団は、地域に密着したプロスポーツ球団として、県民に夢や感動を与えるほか、地域への愛着や誇りを醸成するとともに、地域のイメージアップやスポーツ振興、経済効果などの様々な好影響をもたらしています。
- また、いずれの球団も、県内各地で地域イベントへの参加やスポーツ教室の開催などの活動を積極的に行い、地域の活性化や子どもの健全育成、福祉の向上、スポーツ振興に大きく貢献しており、県民からも様々な地域に密着した活動を期待されています。
- 4球団の認知度は高まっていますが、長期化するコロナ禍の影響もあり、いずれも観客数は伸び悩んでおり、各球団が、健全に経営され、地域に根差した球団として県民との交流を更に深めるためには、認知度の向上や応援機運の盛り上げに向けた取組みが必要となっています。

【具体的取組み】

- 愛媛県プロスポーツ地域振興協議会を通じて、集客促進や試合会場内における各種イベント助成等の充実を図り、各プロスポーツ球団に対する応援機運を盛り上げます。
- 各球団と連携して、スポーツ教室や地域との交流等を積極的に行い、地域との密着度を高めるとともに、子どもの健全育成や福祉の向上を図ります。
- 4球団と連携し、若年層のファン獲得に向けたイベントの開催や、選手と県民が交流できる機会を創出するなど、地域密着型プロスポーツ球団の認知度の向上と応援機運の盛り上げのための取組みを行います。

【数値目標】

項目	令和4年度	目標値 (令和9年度)
4球団ホームゲームの1球団あたり平均観客数	1,700人	2,400人

